

兵庫県医師会医療支援チーム（第15陣）「宮城県災害支援現地報告」

理事 小高 正裕

伊丹空港から山形空港、雪まだ残る奥羽山脈をぬけて仙台に出ました。津波のため全滅した海岸地域を通り、約3時間かけて石巻中学校に到着しました。石巻中学校には、約500人の被災者がおり、すべての教室や講堂にて生活をしておりました。第14陣のチームリーダー長田区の津田正治先生から引継ぎを受けた後、ただちに医療活動に入りました。石巻中学校、住吉中学校、山下小学校の3ヶ所の救護所および公民館、図書館の救護所の巡回診療を5人で担当しました。避難所で寝るだけの運動不足、おにぎり、パン、カップラーメンばかりで、炭水化物の過剰摂取、野菜不足等による生活習慣病の悪化、せき症状の増加、不眠等がみられました。震災1ヶ月を経過してきており、医療ニーズの変化があります。いままで我慢してきた膝痛、めがね、コンタクトレンズをなくし困っている。「せき」そのものは軽いですが、避難所のため気兼ねするので止めてほしい等です。車しか移動手段がなく、市内は大変な交通停滞でした。不十分な施設、物品のなか、上記の先生方には兵庫県医師会員として大変な医療活動に従事され感謝いたしております。また、看護師、薬剤師、事務の方にも大変な御苦勞をおかけしました。お礼を申し上げます。帰途の途中、津波によって崩壊した海岸近くに立つ石巻市民病院を見て、何年後かのどこかの市民病院とこども病院を想像しながら帰ってきました。